

NPO等からの協働事業提案（新しい公共の場づくりのためのモデル事業）

<p>事業概要 ここに記載された事業概要は、公開プレゼンテーション等において、記載内容のまま公表いたしますのでご了承ください。</p>	<p>「家族そろって日本語講座@飯野高校」</p> <p>①対象者：地域に暮らす外国人家族（一人でも参加できる）</p> <p>②会 場：三重県立飯野高校（鈴鹿市）</p> <p>③開設時間等：2012年7月～2013年2月（8か月間） 毎週1回（平日）同時2コース開講 各19:00～21:00</p> <p>④指導者：現役の日本語教師（有資格者・市民社会研究所所属）各コース1名</p> <p>⑤補助者：人財ポケット国際部会 各コース2名（文化庁日本語ボランティア講座修了者）</p>
<p>①課題把握の的確さ、事業目的の明確化 （自由提案の場合）この協働事業で解決しようとする課題について、貴団体が考える課題の現状や、現状の原因・背景等について具体的に記載してください。 （県テーマの場合）選択したテーマについて、貴団体が把握している課題の現状や、現状の原因・背景等について具体的に記載してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現在県内総人口に占める外国人比率（平成22年12月末）2.47% → 全国3位 市町村別 1位 四日市市8,551人 2位 鈴鹿市8,454人 3位 津市8,281人 ・「四日市市外国人市民実態調査アンケート」（2009年）によると、3年以内に帰国予定の者は12.9% → 定住化を望む傾向がみられ、これに伴い外国人青少年の教育問題及び就職問題が顕在化しており、これらの問題は日本語能力の問題と重なる。 ・日本語能力レベルの多様性・ニーズの多様性（就職・学校での学び・日常生活等） ・日常会話力は比較的早く修得できるが、学校・職場に必要な能力である「読む」「書く」「発表する」などはなかなか修得できない。 ・行政やNPO等による日本語の講座はあるが、日常会話や日本語能力試験のN3程度までのものが多く、それ以上のレベルや能力試験に対応できるところが少ない。
<p>②県との協働の必要性・多様な主体との連携 ①に挙げられた課題を解決するために、協働的・必要・多様な主体を対する考え方を記載してください。</p>	<p>三重県教育委員会においては、外国人高校生の進学が増加などに対応するため、平成23年度、神戸高校定時制と亀山高校定時制を、飯野高校定時制に統合されたほか、同校を日本語指導の拠点校として位置づけ、平成24年3月には多文化共生学習支援センター（仮称）の建設が予定されている。同校を多文化共生を促進する「拠点」とし、NPOが持つ日本語指導のノウハウやアイデアを「中身」として協働すれば、地域の外国人の抱える多様な日本語ニーズに効果的に対応でき、全県的なモデルとなる。</p>
<p>③提案の具体性 ①で挙げられた課題の手段として、提案内容を具体的に記載したところを、実施するところを期待され記載してください。</p>	<p>1 協働事業の内容—日本語講座を同時に2コース開催</p> <p>Aコース：日本語能力試験受験講座（大人中心）～N3・N2受験対応</p> <p>*N2/N3 日常会話には支障がなく、ある程度の文章を読んだり書いたり理解できるレベル</p> <p>*日本語能力試験は就職試験に生かせ、日本語学習のモチベーションが高まる。</p> <p>*必要に応じて、就職対策としての内容を盛り込むことも可能。</p> <p>Bコース：日本語基礎講座（子ども中心）～聞く、読む、書く、発表する。</p> <p>*小中学校での初期適応指導では対応しきれない課題に対応する。</p> <p>2 期待される効果</p> <p>① 外国人の多様なニーズに、一度に対応することができる。</p> <p>② 従来の日本語学習で不足しているスキルを高めることができる。</p> <p>③ 仕事や学校の終了後家族がそろって参加でき、親子の絆を深めることができる。</p> <p>④ 日本語ボランティアの活動の場が生まれ、活性化する。</p>
<p>④提案の新規性・先進性 提案する事業について、既存の取り組みとの相違や、新たな課題解決のモデルとして有効と考える点などを記載してください。</p>	<p>1 違うタイプの日本語講座を同時開催することにより、多様なニーズに対応できるとともに、家族ぐるみの参加が可能になる。</p> <p>2 行政やNPO等による日本語講座はあるが、日常会話や日本語能力試験のN3程度までのものが多く、それ以上のレベルに対応できるところが少ない。</p> <p>3 当NPOが文化庁委託事業で養成してきた100人を超える日本語ボランティア、特に現在養成中の「日本語能力試験指導ボランティア」を補佐的に活用する。</p>

	<p>⑤事業の継続性・発展性</p> <p>今回の委託事業終了後（平成25年度以降）、どのように事業を展開していくことを想定しているか記載してください。</p>	<p>1 平成25年度からは文化庁『生活者としての外国人』のための日本語教育事業として、同内容（2コース）の講座を実施する。</p> <p style="padding-left: 40px;">*平成24年度の実施内容によっては、コースを増やすことも考えられる。</p> <p style="padding-left: 80px;">例) 高度な日本語能力試験「N1」のための講座</p> <p style="padding-left: 40px;">*三重県の予算措置によっては、県事業とすることも考えられるが、今年度の実施状況をみて国の資金を活用することを検討したい。</p> <p>2 多文化共生学習支援センター事業として、この講座の実施と並行して「日本語弁論大会」のような事業を実施する。</p>		
<p>事業内容</p>	<p>⑥提案の実現性（遂行能力）</p> <p>提案する事業に関連して、貴団体がNPO等ならではの特性を生かして活動してきた実績や、貴団体が有する専門性等について記載してください。</p>	<p>1 当団体は、専門的な日本語教師グループ（現在5人）を有している。 愛知県、三重県の日本語学校やハローワーク等の日本語教師（全員有資格者）</p> <p>2 上記の日本語教師グループとの協力により、以下の事業を実施してきた。</p> <p>(1) 文化庁委託事業「生活者としての外国人のための日本語教育事業」</p> <p style="padding-left: 40px;">①日本語ボランティア養成講座（平成19年度～）</p> <p style="padding-left: 80px;">*平成23年度は「日本語能力試験のためのボランティア」養成中</p> <p style="padding-left: 40px;">②外国人を対象とする日本語講座（平成22年度～）</p> <p>(2) 四日市市委託事業「日本語ボランティアブラッシュアップ講座」（平成20年度～）</p> <p>(3) 県立飯野高校「地域の外国人を対象とした日本語教室」運営受託（平成23年度～）</p> <p>3 2で養成した日本語ボランティア約100人による「人財ポケット国際部会」を組織している。</p> <p style="padding-left: 40px;">四日市市笹川地区主催の笹川日本語教室、四日市市国際共生サロン等の支援等、多数の実績がある。</p>		
	<p>⑦事業の収支計画・スケジュールの妥当性</p> <p>事業に必要な経費の積算の仕方や事業スケジュールの考え方等について記載してください。</p>	<p>別紙 事業計画書、事業収支計画書 参照</p>		
<p>貴団体と県の役割分担</p>		<p>■協働相手となる県の担当室 三重県教育委員会高校教育室</p> <p>■貴団体と県の役割分担 (貴団体の役割) 地域の外国人のニーズに合った日本語講座の企画・実施 (県の役割) 企画作成への参画 高校生、保護者、その家族を通じた受講生募集の情報発信 会場の提供・実施の協力</p> <p>■その他の参画団体の名称と役割 人財ポケット国際部会（日本語講座運営補助、企画作成への参画） 鈴鹿市（日本語講座広報協力、企画作成への参画） 鈴鹿市商工会議所、地元自治会等</p>		
<p>申請額／全体事業費</p>	<p>2,498</p>	<p>千円 /</p>	<p>2,498</p>	<p>千円</p>
<p>事業期間</p>	<p>西暦 2012</p>	<p>年 4</p>	<p>月～ 2013</p>	<p>年 3 月頃</p>